

有償運送に検討手順

地交会 協議など 地交会 協議など 地交会 協議など

国交省通知

国土交通省は、コミュニティバス、乗合タクシーなどの運行を決める自治体主宰の地域公共交通協議と自家有償旅客運送運協協議会での「検討プロセス」を構築し、3月30日付で地方運輸局・日本バス協会・全国ハイヤー・タクシー連合会などに通知した。地域の移動サービスの担い手としてバス・タクシー事業者を大前提とする「ことを明確化し、その上でボランティアの有償運送を取り入れる際の検討の手順を示した。無償の「助け合い輸送」を含め、最適な組み合わせと役割分担で公共交通サービスを円滑に導入するのを目指す。

適切な役割分担目指す

地交協議や運協協議の開催
協議をめぐっては従来、「スムーズに手続きが進まないうち」に「一部のメンバーが強く反対して、提案がとん挫く」といったケースが各地で少なくない。

互助による輸送などが適切な役割分担で導入され、必要な輸送手段が確保される「ことが期待されている。

謝礼の範囲明確化

検討プロセスは具体的に、まず前提とされるのは、バス・タクシーなどの交通事業者からの提案だ。地域・地区で移動手段の必要性が生じたとき、バス・タクシー事業者が最初に運行の案を求め、サービスの可能性を地域で考えるところから開始する。バス・タクシー側から具体的な提案がなかった場合は「交通事業者によること」が困難なことについて協議が調ったものとみなす」とし、有償運送の検討に入るフローとなっている。タクシー業関係者からは「各地で事業者は自治体を訪問してニーズをくみ取り、どんどん提案していかなければならぬ」との声が聞かれる。

助け合い輸送は運送の対価(料金)を収めず、燃料代などの実費と謝礼で活動が成り立っている。謝礼の範囲の明確化も30日付でされた。これまでの事務連絡「道路運送法の登録・許認可を要しない運送の態様が通達に引き上げられた。都市部での非営利型・自家客運送事業と自家用有償、

どの事実がなく、あくまでも自発的に、謝礼の趣旨で金銭などが支払われた場合は、通常は有償と見做され「ない」とした。具体例として「家事援助サービスの後、たまたま用務先が同一方向にあり、懇願されて同乗させた場合、利用者の自発的な気持ちから金銭が支払われた」など示した。一方、謝礼に当たらないケースとして①あらかじめ運賃表などを定め、それに基づき金銭の収受が行われる場合②会費の全部または一部によって運送サービスの提供に必要なコストが負担されるなど、運送と会費の負担に密接な関係が認められ、運送に対する反対給付の関係が特定される場合は、会費と称して対価の収受が行われている③協賛金・保険料・カンパなど、運送とは直接関係のない名



降り降りを手助けする移動支援 Rera のスタッフ。ボランティア送迎は住民にとって欠かせない移動手段に。バス・タクシー、自家用有償、助け合いが適材適所で暮らすの足を担う時代へ(宮城県石巻市・湊地区)



助け合い送迎 不可欠

「移動支援 Rera」村島代表

住民による助け合い送迎(以下一部)のほかに、住民の役割が重要視されるようになってきたと感じる。これまで、全国の移動の課題は「自分ごと」として地域の移動と一緒に考える時代になつていくのだと思う。移動の担い手としての役割を背負う一方で、有償であれ、無償であれ、助け合い送迎を継続することは制度として非常に難しいと感じる。実際に必要となる経費の

「自分ごと」として地域の移動と一緒に考える時代になつていくのだと思う。移動の担い手としての役割を背負う一方で、有償であれ、無償であれ、助け合い送迎を継続することは制度として非常に難しいと感じる。実際に必要となる経費の

「利用者に對し、謝礼の決定を経由しなければ、ガソリン代、道路通行料の決済ができない仕組みを提供する場合」と明記した。